

基礎編

◆ 『基礎編』 の見方

調布市の基礎的なデータとして、「人口」「土地利用」及び「財政」の3項目について、指標の推移等を掲載しています。

その見方は以下のとおりです。

【基礎情報名】

□大項目(「人口」「土地利用」「財政」)ごとの3つの項目に分かれています。

【現状】

□大項目(「人口」「土地利用」「財政」)ごとに、各データから読み取れる現状について総合的に記載しています。

□大項目を複数の中項目に分類しています。

□中項目ごとに、関連する調布市の基本データを示し、推移や近隣自治体との比較等により現状を分析しています。
□「人口」では、一部のデータで今後の推計値の掲載をしています。

1 人口

■ 現状

○調布市では、出生が死亡を上回る自然増、転入が転出を上回る社会増が続いており、総人口は平成9年からの20年間で3万人以上増加しています。

○市の将来人口推計(平成30年3月)における基本推計では、総人口は今後も増加が続き、平成40年(2028年)に24万1,741人をピークに、減少に転じると見込んでいます。

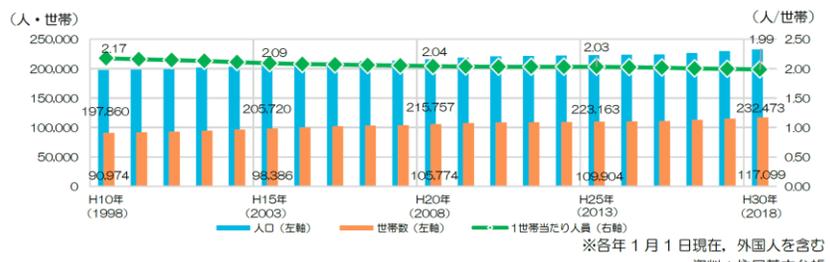
○平成30年1月1日現在の調布市の人口は約23万2,000人となっています。老年人口(65歳以上の人口)は全国的な増加傾向と同様増加が続いています。一方、年少人口(14歳以下)及び生産年齢人口(15歳~64歳)は、全国的な減少傾向と異なり、微増傾向となっています。

○また、調布市では、夜間人口に比べ昼間人口が少なくなっており、通勤・通学人口の流出超過となっています。

1-1 総人口・世帯数・人口密度

◆ 総人口、世帯数(推移)

平成10年~平成30年の20年間で、人口は約3.5万人、世帯は約2.6万世帯増加した一方、1世帯当たりの人員は2.17人から1.99人に減少しています。総人口は平成29年2月に23万人を超えました



◆ 人口、世帯数(平成29年比較)

近隣自治体の中では人口、世帯数ともに2番目に多くなっていますが、1世帯当たりの人員は3番目に少なくなっています



1 人口

■ 現状

○調布市では、出生が死亡を上回る自然増、転入が転出を上回る社会増が続いており、総人口は平成9年からの20年間で3万人以上増加しています。

○市の将来人口推計（平成30年3月）における基本推計では、総人口は今後も増加が続き、平成40年（2028年）に24万1,741人をピークに、減少に転じると見込んでいます。

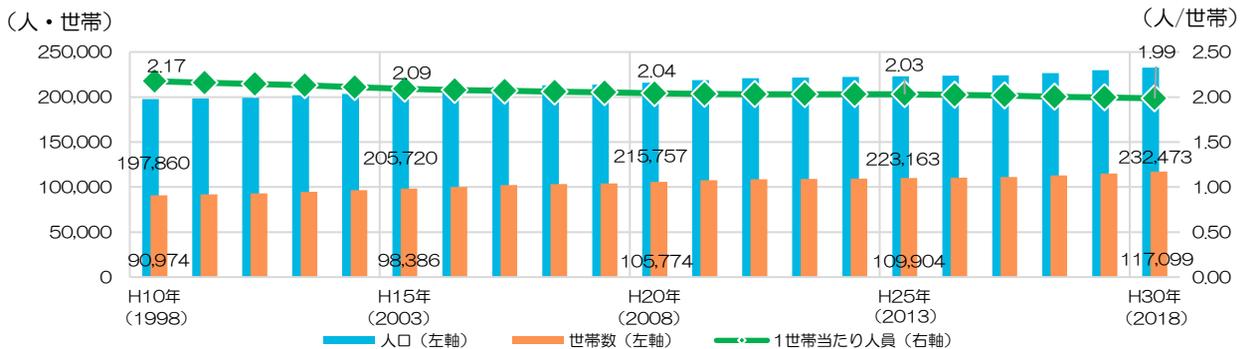
○平成30年1月1日現在の調布市の人口は約23万2,000人となっています。老年人口（65歳以上の人口）は全国的な増加傾向と同様増加が続いています。一方、年少人口（14歳以下）及び生産年齢人口（15歳～64歳）は、全国的な減少傾向と異なり、微増傾向となっています。

○また、調布市では、夜間人口に比べ昼間人口が少なくなっており、通勤・通学人口の流出超過となっています。

1-1 総人口・世帯数・人口密度

◆総人口、世帯数（推移）

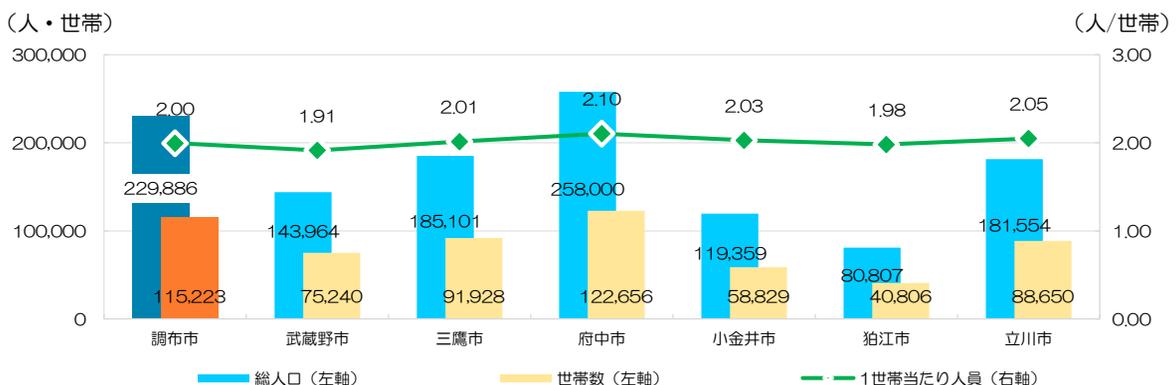
平成10年～平成30年の20年間で、人口は約3.5万人、世帯は約2.6万世帯増加した一方、1世帯当たりの人員は2.17人から1.99人に減少しています。総人口は平成29年2月に23万人を超えました



※各年1月1日現在、外国人を含む
資料：住民基本台帳

◆人口、世帯数（平成29年比較）

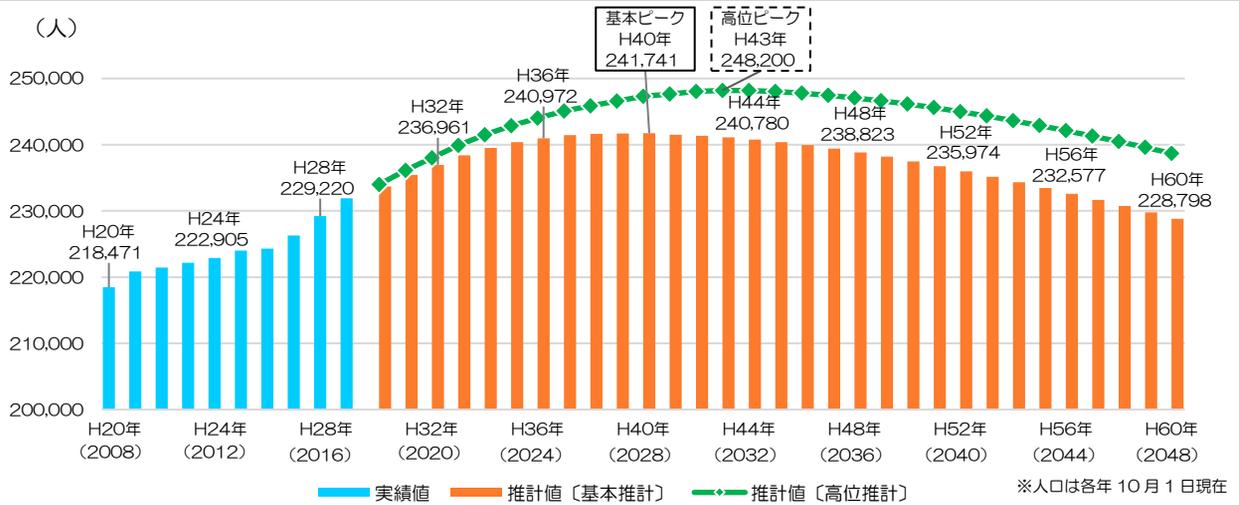
近隣自治体の中では人口、世帯数ともに2番目に多くなっていますが、1世帯当たりの人員は3番目に少なくなっています



※各年1月1日現在、外国人を含む
資料：東京都人口統計課「住民基本台帳による世帯と人口」（平成29年1月）

◆総人口（将来人口推計）

市の将来人口推計（平成 30 年 3 月）では、ベースとなる基本推計に加え、更なる人口増を見据えた高位推計を行っています。総人口は今後も増加が続き、基本推計では、平成 40 年（2028 年）に 241,741 人でピークを迎えるの見込んでいます。高位推計では、平成 43 年（2031 年）に 248,200 人でピークを迎えるの見込んでいます



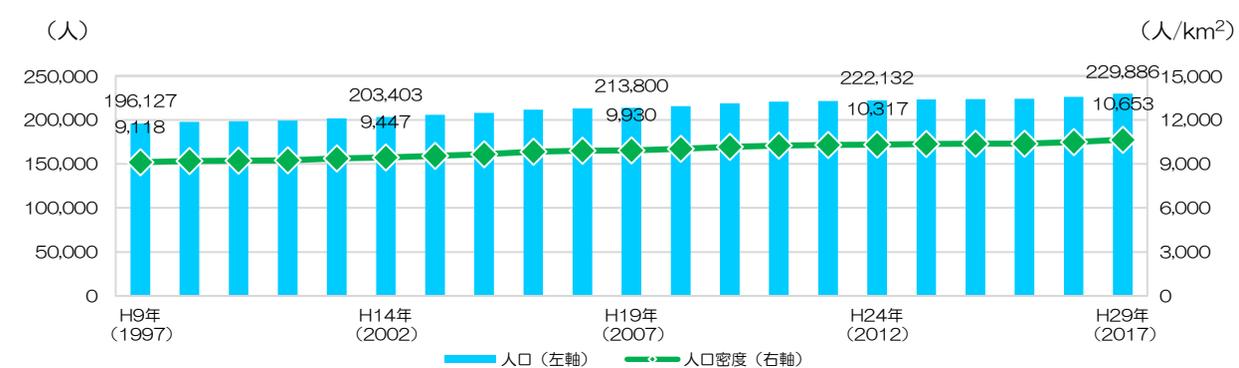
※人口は各年 10 月 1 日現在

資料：調布市の将来人口推計（平成 30 年 3 月）

※以降、本冊子に掲載する将来人口推計のデータは「基本推計」のみとする。高位推計を含めた人口推計の詳細については「調布市の将来人口推計（平成 30 年 3 月）」を参照

◆面積・人口密度（推移）

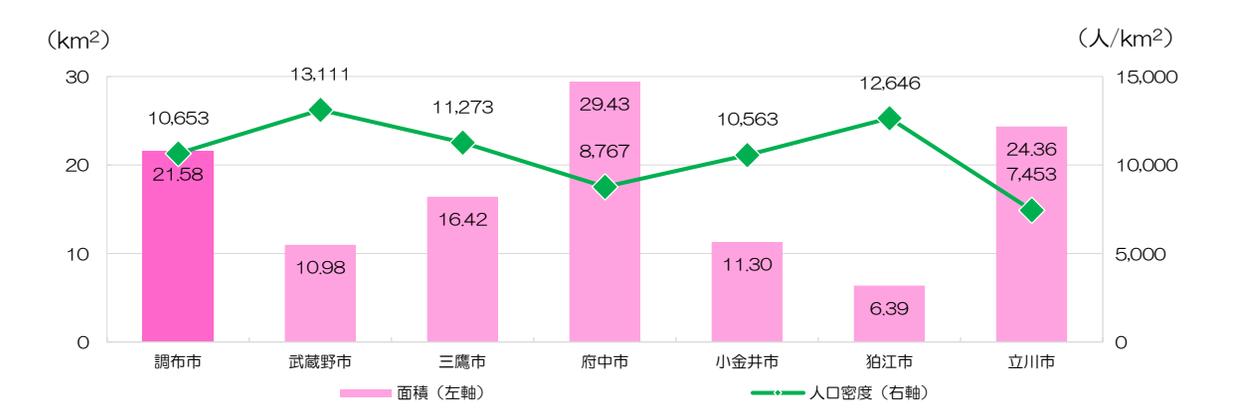
人口密度は平成 9 年から平成 29 年の 20 年間で 1,500 人/km² 増加しています



※人口は各年 1 月 1 日現在、外国人を含む
 ※人口密度は国勢調査記載の市の面積を用いて算出
 資料：住民基本台帳

◆面積・人口密度（平成 29 年比較）

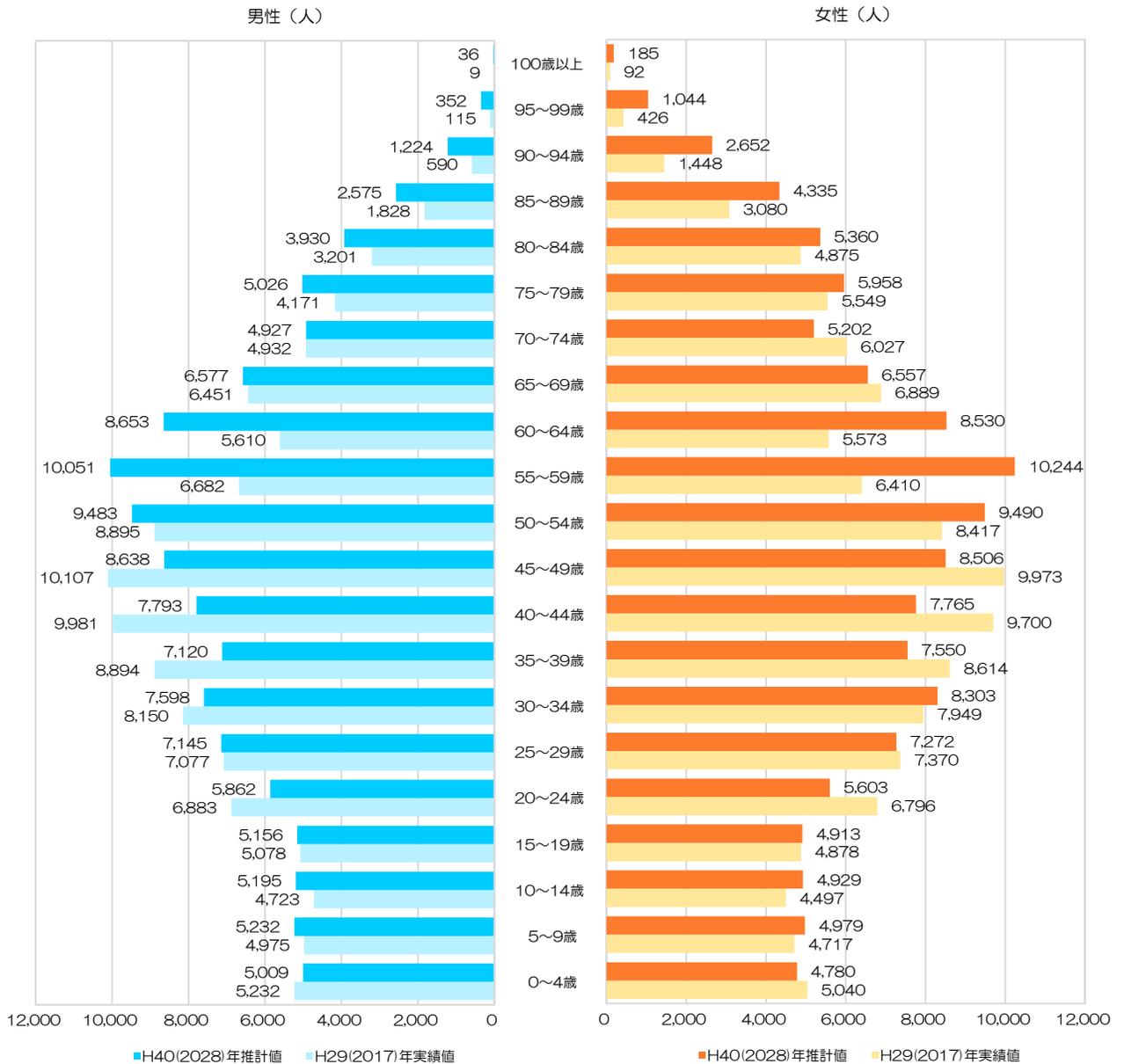
面積は近隣自治体の中で 3 番目、人口密度は 4 番目の規模となっています



※外国人を含む
 資料：東京都人口統計課「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」（平成 29 年 1 月）

◆5歳階級別人口（平成29年実績値，平成40年推計値〔基本推計〕）

平成29年10月1日時点で男性女性ともに45～49歳が1万人前後と最も多くなっていますが，19歳以下の年齢層ごとの人口は，それぞれ5千人前後となっています
 平成29年から平成40年（2028年）にかけて，男性女性ともに5～19歳及び50歳台以上では概ね増加が見込まれています
 一方，0～4歳及び20歳台～40歳台では概ね減少が見込まれています

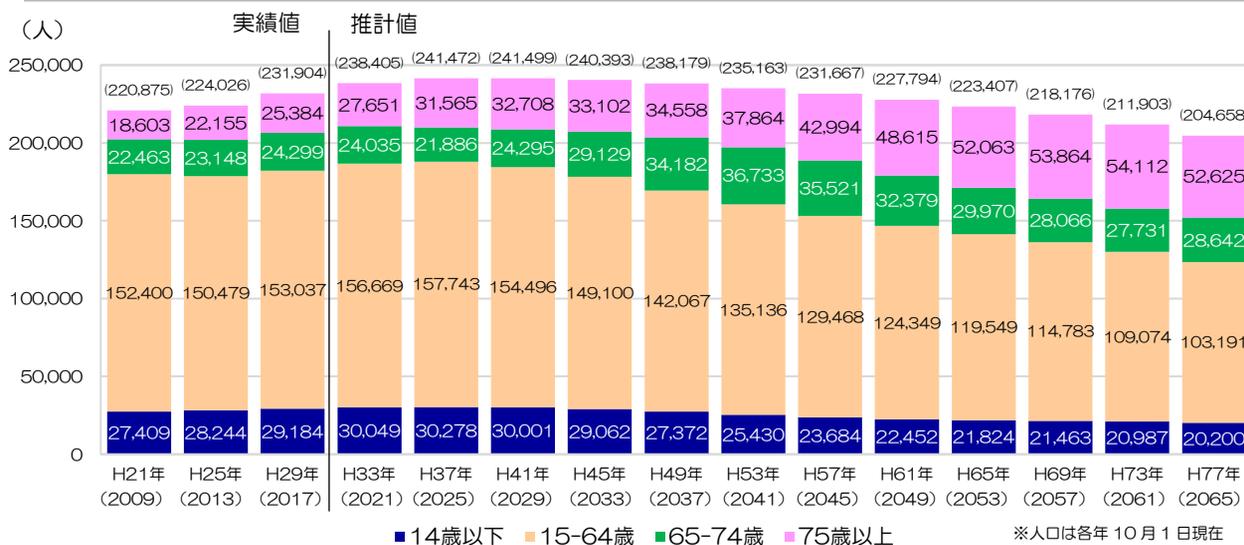


※各年10月1日現在，推計値は平成29年10月1日を基準とした人口推計，いずれも外国人を含む

資料：調布市の将来人口推計（平成30年3月）

◆年齢4区分別人口（実績値・推計値〔基本推計〕）

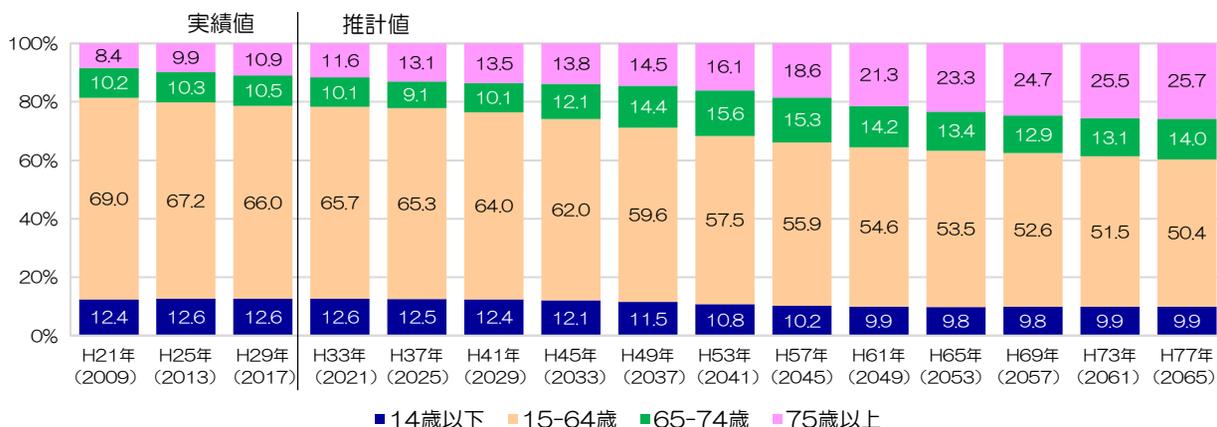
平成 29 年（2017 年）から平成 77 年（2065 年）にかけて、15 歳以上 64 歳以下が約 50,000 人減少する一方、65 歳以上は約 32,000 人の増加が見込まれます



資料：調布市の将来人口推計（平成 30 年 3 月）

◆年齢4区分別人口（実績値・推計値〔基本推計〕）【構成比】

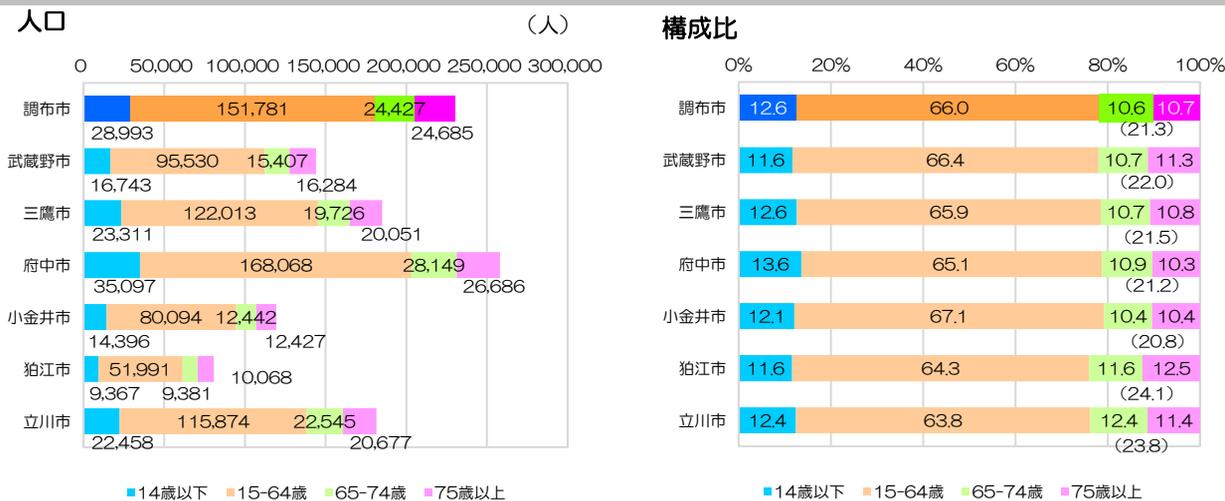
平成 29 年（2017 年）から平成 77 年（2065 年）にかけて、64 歳以下の割合は減少し、65 歳以上の割合は増加していきます



資料：調布市の将来人口推計（平成 30 年 3 月）

◆年齢4区分別人口（平成 29 年比較）

近隣自治体の中で年齢構成に大きな差はみられません。狛江市と立川市の老年人口が 23%を超えてやや高くなっています

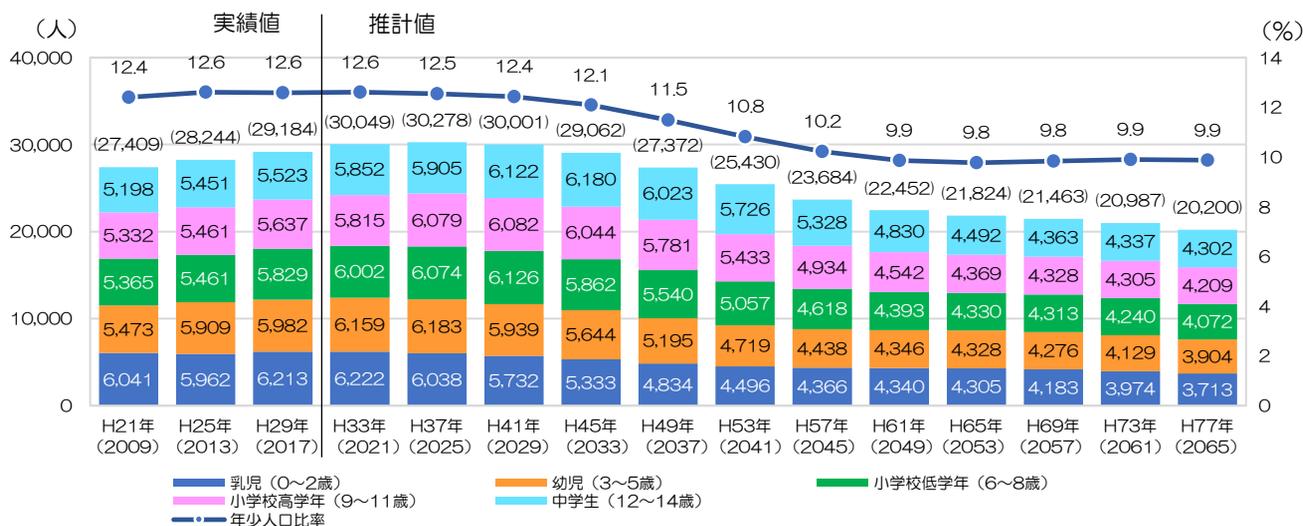


資料：東京都総務局統計部人口統計課 「住民基本台帳による東京都の世帯と人口」（平成 29 年 1 月 1 日現在）

※外国人を含む

◆年少人口（実績値・推計値〔基本推計〕）

増加傾向で推移している年少人口は、平成37年（30,278人）をピークに減少に転じ、年少人口比率は、平成77年（2065年）には平成29年（2017年）から2.7ポイント減少する見込みです

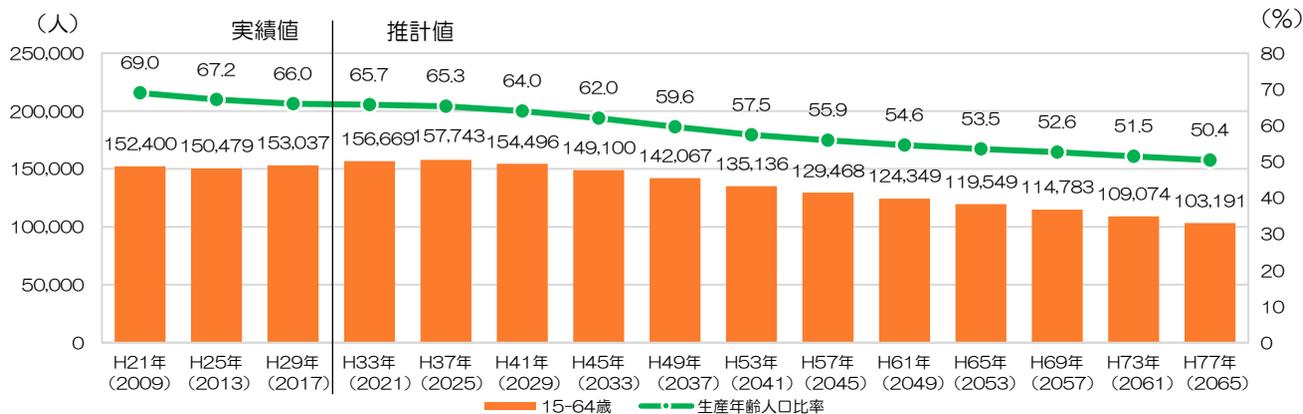


資料：調布市の将来人口推計（平成30年3月）

◆生産年齢人口（実績値・推計値〔基本推計〕）

生産年齢人口は減少傾向でしたが、近年増加に転じ、平成36年（157,790人）をピークに再び減少していく見込みです

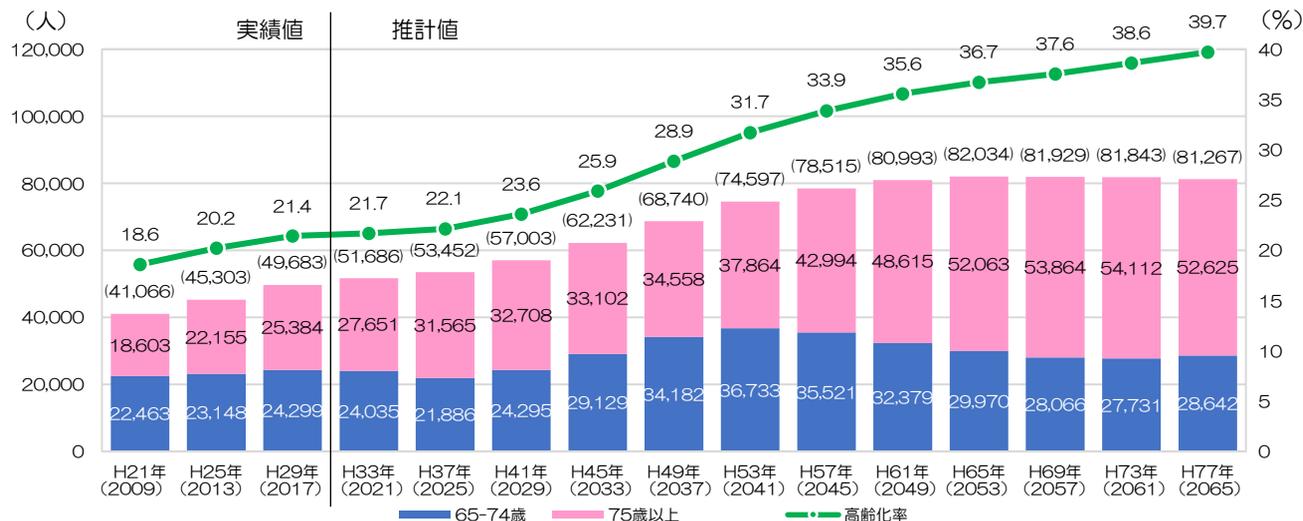
生産年齢人口比率は、平成77年（2065年）には平成29年（2017年）から15.6ポイント減少する見込みです



資料：調布市の将来人口推計（平成30年3月）

◆老年人口（実績値・推計値〔基本推計〕）

老年人口は一貫して増加しており、平成77年（2065年）には老年人口比率（高齢化率）が平成29年（2017年）の2倍近くになる見込みです



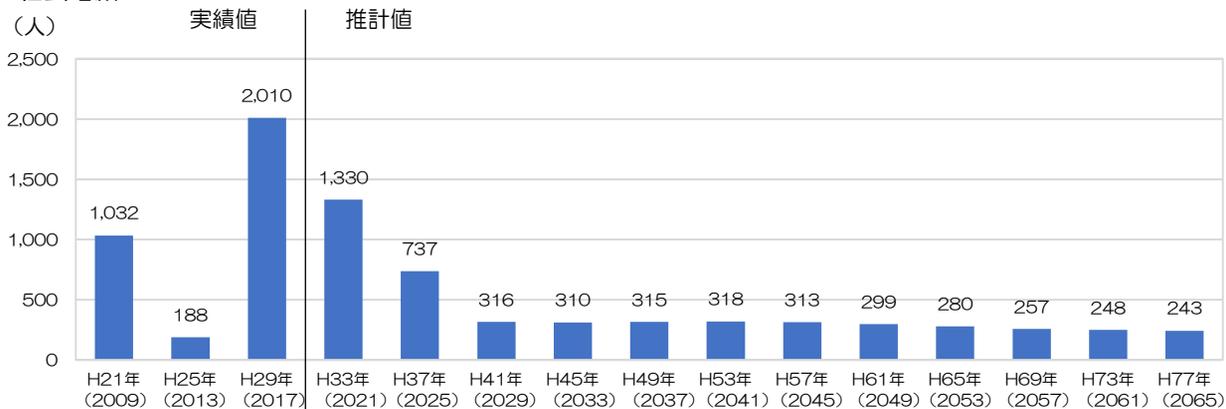
資料：調布市の将来人口推計（平成30年3月）

1-3 人口動態

◆人口動態（自然増減・社会増減など）

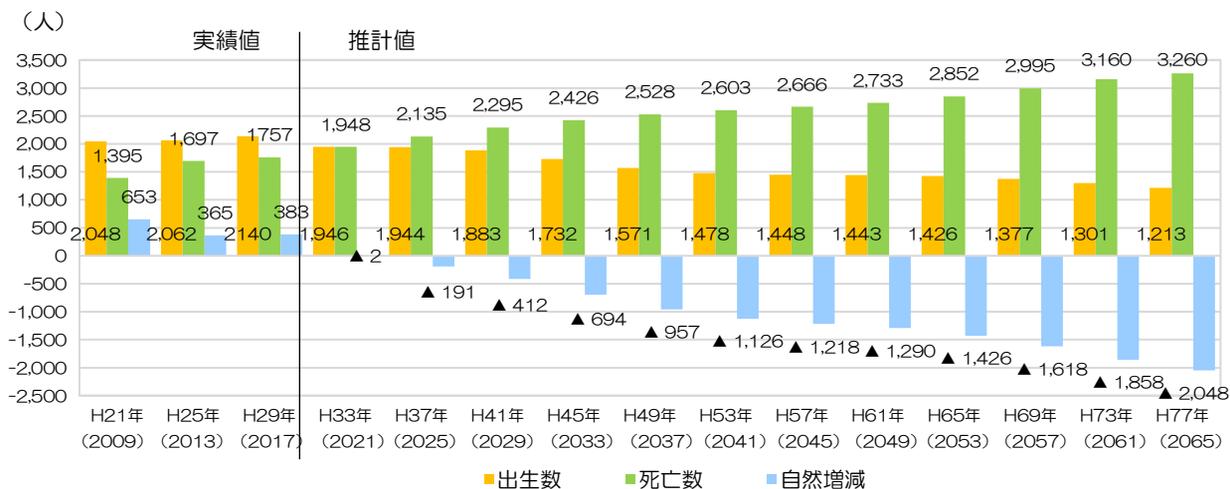
社会増（転入が転出を上回る）が続いており、今後は増加数は小さくなりますが、社会増が続く見込みです
 自然増（出生が死亡を上回る）が続いていますが、平成33年には死亡数が出生数を上回る見込みです
 なお、平成24年から平成28年の増減人口は、近隣自治体の中で最も多くなっています

社会増減



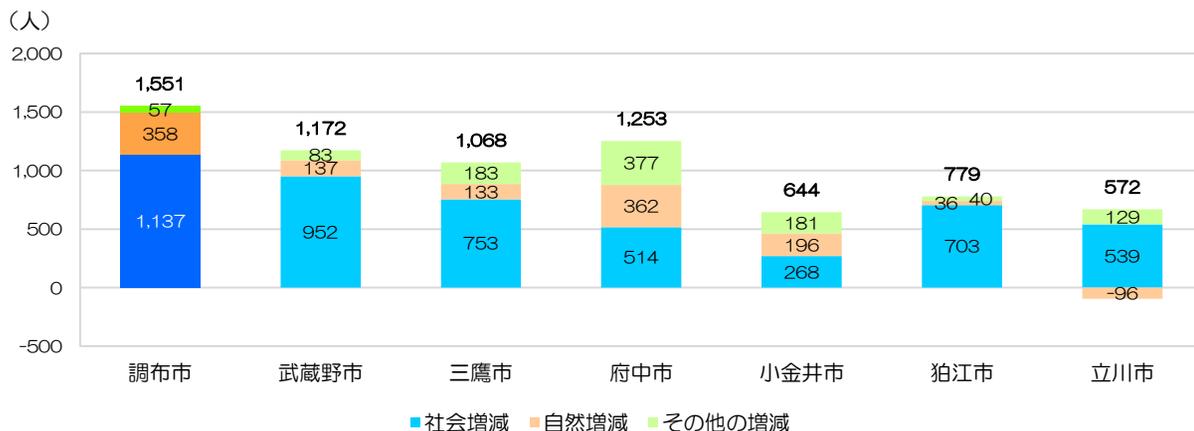
資料：調布市の将来人口推計（平成30年3月）

自然増減



資料：調布市の将来人口推計（平成30年3月）

平成24～28年比較（5年間の平均）



資料：東京都人口統計課「人口の動き（平成28年中）」

※「その他の増減」とは、出国、入国並びに帰化、国籍離脱及び実態調査等職権による記載、消除及び補正による増減等である。

(参考) 調布市への転入が多い市区・調布市からの転出が多い市区(平成28年, 上位5市区)

転入	自治体名	転入者数(人)	転入者数(総数)に占める割合(%)	転出	自治体名	転出者数(人)	転入者数(総数)に占める割合(%)
1位	世田谷区	1,622	10.8	1位	世田谷区	954	7.8
2位	三鷹市	727	4.9	2位	府中市	691	5.7
3位	杉並区	703	4.7	3位	三鷹市	510	4.2
4位	府中市	538	3.6	4位	杉並市	425	3.5
5位	八王子市	425	2.8	5位	八王子市	361	3.0
転入者数(総数)		15,003		転出者数(総数)		12,166	

資料: 地域経済分析システム (RESAS)

(参考) 合計特殊出生率の推移

	平成19年 (2007)	平成20年 (2008)	平成21年 (2009)	平成22年 (2010)	平成23年 (2011)	平成24年 (2012)	平成25年 (2013)	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	平成28年 (2016)
全国	1.34	1.37	1.37	1.39	1.39	1.41	1.43	1.42	1.45	1.44
東京都	1.05	1.09	1.12	1.12	1.06	1.09	1.13	1.15	1.24	1.24
調布市	1.11	1.14	1.15	1.2	1.17	1.22	1.27	1.31	1.23	1.31

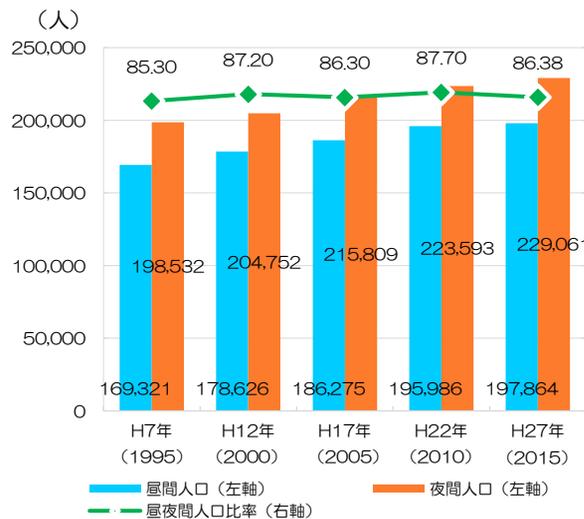
資料: 厚生労働省「人口動態統計」, 調布市統計書

1-4 昼夜間人口

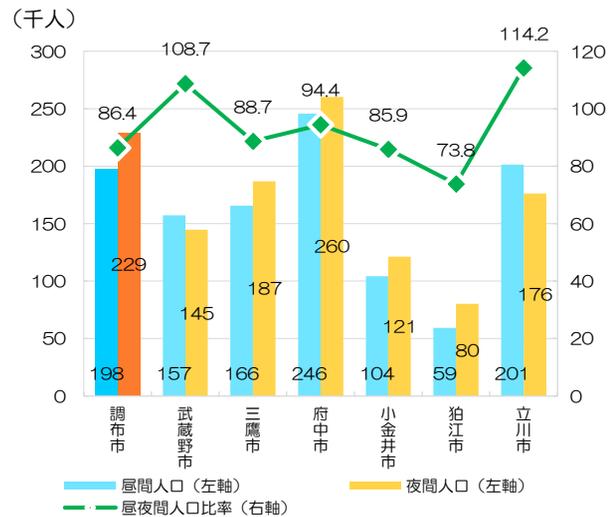
◆昼間人口・夜間人口

平成27年までの20年間で、昼間人口、夜間人口ともに約3万人増加しています
昼夜間人口比率に大きな差はみられません

推移



平成27年比較



資料: 国勢調査(平成27年10月)

※昼間人口: 通勤・通学をしている人を、その通勤・通学先(従業地・通学地)で集計した人口のこと。昼間に活動している場所での人口となるので、「昼間人口」と呼ばれる。他の市区町村から買い物客などの不定期な移動者は含まれない。

※夜間人口: 人が住んでいる場所(常住地)で集計した人口のこと。人が寝泊りする場所での人口となるので、「夜間人口」と呼ばれる。

※昼夜間人口比率: 夜間人口100人当たりの昼間人口の割合のこと。100を超えると、通勤、通学人口の流入超過、下回ると流出超過を示す。

◆流入人口（市外からの通勤・通学者）・流出人口（市外への通勤・通学者）（推移）

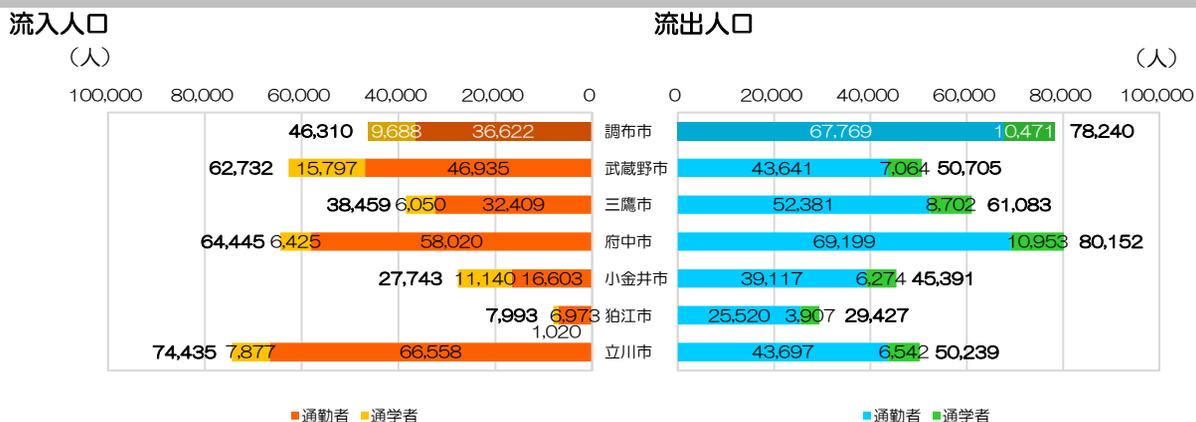
平成 22 年まで流入人口，流出人口ともに減少が続いていましたが，平成 27 年はどちらも増加に転じています



資料：国勢調査

◆流入・流出人口（平成 27 年比較）

近隣自治体の中で流入人口は 4 番目に多く立川市の 6 割程度となっておりますが，流出人口は府中市について 2 番目に多くなっています



資料：国勢調査（平成 27 年 10 月）

（参考）市区別流出・流入人口（上位 10 市区）

流出（市外への通勤・通学）

順位	自治体名	流出人口 (人)	市内常住の 従業者・通学者に 占める割合 (%)
1 位	新宿区	8,468	7.0
2 位	千代田区	7,091	5.9
3 位	世田谷区	6,297	5.2
4 位	渋谷区	6,067	5.1
5 位	港区	5,704	4.7
6 位	府中市	3,996	3.3
7 位	三鷹市	3,720	3.1
8 位	中央区	3,418	2.8
9 位	杉並区	2,717	2.3
10 位	八王子市	2,452	2.0
市内常住の従業者・通学者 (市内での従業・通学含む)		120,121	

流入（市外からの通勤・通学）

順位	自治体名	流入人口 (人)	市内常住の 従業者・通学者に 占める割合 (%)
1 位	府中市	5,737	6.5
2 位	八王子市	3,092	3.5
3 位	世田谷区	3,016	3.4
4 位	三鷹市	2,801	3.2
5 位	多摩市	2,027	2.3
6 位	稲城市	1,801	2.0
7 位	狛江市	1,705	1.9
8 位	日野市	1,389	1.6
9 位	杉並区	1,379	1.6
10 位	町田市	970	1.1
市内の就業者・通学者 (市内での従業・通学含む)		88,192	

資料：国勢調査（平成 27 年 10 月）